

International Cooperation Center for
Agricultural Education, Nagoya University

ICCAE

 news
No.6 2002.4.1

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成14年4月1日発行 第4巻 第1号(年2回発行;通巻6号)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~iccae/index-j.html
e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

日本のODAを考える in 名古屋 21世紀における国際協力のあり方

農学国際教育協力研究センター
第3回オープンフォーラムを開催
(2001年12月7日～8日)

協力ネットワーク開発研究領域 北川勝弘

農学国際教育協力研究センターは、2001年12月7日、8日の2日間、「日本のODAを考えるin名古屋 21世紀における国際協力のあり方」をテーマとする第3回オープンフォーラムを、財団法人・愛知県国際交流協会と共催で、あいち国際プラザ(名古屋市中区)において開催した。フォーラムの目的は、発展途上国に対する日本と世界の国際協力を総括し、今後の国際協力はどうあるべきかを議論すること、特に国際協力を進めるうえでの困難さが他の地域と比較して多いアフリカにおける農業協力を題材として、具体的な改革の方向を議論することとされ、2日間で延べ125名が参加した。

初日の冒頭、文部科学省大臣官房国際課の木曾功課長



文部科学省 木曾 功 国際課長による来賓挨拶

が来賓挨拶された。初日は、「ODAの成果と今後の改革方向」をサブテーマとして、5名の講演が行われた。①わが国のODAはどのように展開してきたか(小浜裕久・静岡県立大学教授)②開発援助手法の問題(木村洋・国連地域開発センター所長)③21世紀のODA改革の考え方(市川博也・上智大学教授)④農業技術普及分野における社会人教育(アクアモア・ボーテン・ケープコースト大学(ガーナ)教授)⑤アフリカはどこへゆくー農業の再建と人づくりを目指して(石弘之・東京大学教授)。

2日目は「アフリカ農業協力から見たODAー人づくりの視点から」をサブテーマとする、講演と討論が行われた。午前の部で、ナミビア大学学長・カチャビビ教授が特別講演「日本の大学の国際協力における役割ーナミビアからの期待」を、また国際協力事業団アフリカ/中近東/欧州部長・橋本栄治氏が「対アフリカ農業協力の課題と今後の方向性」と題する講演を行った。午後の部では、5名(①松村裕幸・国連世界食糧計画日本事務所長 ②高瀬国雄・(財)国際開発センター顧問 ③林幸博・日本大学助教授 ④浅沼修一・国際農林水産業研究センター科長 ⑤伊藤道夫・笹川アフリカ協会東京事務局員)の事例報告と、2日間全体の総合討論が行われた。

今回のフォーラムでは、講師陣から率直な問題提起がなされ、参加者からも「人づくり協力」の有効な進め方についての質問が出されるなど、2日間にわたり熱心な討論が行われた。



特別講演中の
ナミビア大学カチャビビ学長